



第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 第4回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会



記念誌



主催 公益財団法人明日佳

Contents

(数字はページ数)

- 1 ごあいさつ
- 3 開会式
- 4 白樺が初の全国切符
- 5 大会結果
- 7 カテゴリーⅠ 各校の熱戦譜
- 9 カテゴリーⅡ 各校の熱戦譜
- 30 閉会式
- 31 大会履歴／大会役員

公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト

『自立とRESPECT』

○ 自立への願い

公益財団法人日本ライオンズは、特別支援学校の多くの生徒が、卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるように、生徒の主体的判断を尊重する大会を目指しています。

このため本大会は、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止しています。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある行動を期待しています。

○ RESPECTへの願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT「他人への思いやり」があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判へのRESPECT行動を具体的に示す大会を目指します。

このため会場では、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒と先生、審判、大会関係者などにはRESPECTを表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な礼儀や言葉遣いを行うことを期待しています。

ごあいさつ



公益財団法人明日佳
理事長 小野寺 眞 悟

この度、「第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」を盛会のうちに開催できましたこと、関係各位の多大なるご尽力に心より深く御礼申し上げます。特に、江別市の皆様方のあたたかな気持ちに包まれて、多くの生徒たちが元気に、そして真剣に競技へと臨む姿は、私たちの胸を熱くし、未来への希望を感じさせてくれました。

本大会は、生徒たちが主体的に判断し、協力し合い、そして自立した行動を育む場として、監督やコーチのサイド指示を排除し、生徒自身の力を尊重する形式で運営しています。これは、生徒たちが卒業後の社会で豊かな人間関係を築き、互いに尊重し合いながら生活していくための重要なステップであると考えているからです。

今年度も北海道内から20校が集い、技術と心の交流を通じて RESPECT の精神を体現してくれました。大会を通して見られた挨拶や礼儀、他者を思いやる態度は、生徒たちが未来の社会へと踏み出していく強い基盤となることでしょう。

最後になりましたが、記念誌の発刊にあたり、北海道教育委員会、北海道特別支援学校長会、江別市、札幌北の杜ライオンズクラブをはじめとする皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。

私たち公益財団法人明日佳は、今後も青少年の「夢と希望」の実現に向けて、教育等の現場を力強く応援してまいります。

ごあいさつ



公益財団法人日本ライオンズ
311-複合理事 片 山 雅 裕

歴史的な猛暑に見舞われる中、万全な暑さ対策のもと、2025年第9回小野寺真悟杯北海道特別支援学校フットサル大会が盛大に開催されました。

本大会は、小野寺理事長が特別支援学校の生徒の皆さんに寄せる深い愛情と、その理解に基づくきめ細やかな支援の結晶です。生徒たちに必要な環境を整え、心を込めてサポートする姿勢は、関わるすべての人々の心を打ち、忘れがたい感動として蓄積されていきます。そして、各学校の先生方の熱意と創意工夫も参加校を増やす大きな原動力となり、今年の第9回大会の成功に強く反映されていることと承知しております。

本大会は公益財団法人日本ライオンズ主催の「第4回全国特別支援学校フットサル大会」北海道地区予選に位置づけられています。昨年度は名古屋市で開催された第3回全国大会において、北海道札幌あいの里高等支援学校が準優勝という輝かしい成績を収め、関係者の皆様に大きな歓喜と感動をもたらしました。本年度、第4回全国大会に出場した北海道白樺高等養護学校も健闘し、第5位という好成績を収めました。この実績は北海道のフットサルの高い力量を示すものであり、かつ選手たちのひたむきな努力の証です。

共に汗を流し、互いに励まし合い、喜びや苦しみを分かち合うスポーツは、生徒たちの主体的で自発的な力を育み、心の成長を豊かに促すことと信じています。この大会が、参加生徒、学校関係者、保護者、そしてライオンズクラブ関係者の皆様、すべての方々のお力添えにより、記憶に深く刻まれる思い出深い一日となることを心より願っております。

開会式 リスペクト精神で健闘誓う



開会宣言
鈴木重男実行委員長



主催者挨拶
小野寺眞悟大会長

選手宣誓

私たちは昨年、全国大会で準優勝という結果を残すことができました。大変素晴らしい結果ではありますが、あと一步届かなかった悔しさが今でも心に残っております。全国大会で自分が守り切れなかった場面や張り詰めた緊張感は、今でも忘れられません。そして、この小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会がどれほど素晴らしいかを知りました。私たちを成長させてくれるこの大会を今年も開催して頂いた関係者の皆さま、いつも私たちを支えてくれる全ての人に感謝します。この大会に参加する選手のみなさん、フェアプレーで全力で楽しみ、全力で戦い、この大会を最高のものにしましょう。私たちはフットサルを愛し、仲間を信じ、リスペクトの精神で最後まで全力で戦うことを誓います。

令和7年7月26日

北海道札幌あいの里高等支援学校 長谷川駿太

白樺高等養護が初の全国切符



第9回小野寺眞悟杯兼第4回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会が7月26日（土）、江別市の野幌総合運動公園総合体育館で開催され、カテゴリーⅡでは北海道白樺高等養護学校が2017年（平29）以来8年ぶり2度目の優勝を飾り、初の全国大会出場（11月1日、東京）を決めた。カテゴリーⅠは北海道平取養護学校が優勝した。

予選Bリーグを2勝1分けで通過した白樺は1～4位決定トーナメントの1回戦で昨年優勝、そして全国大会でも2位と躍進した、全国でも屈指の高いテクニックとパスワークを誇る北海道札幌あいの里高等支援学校と対戦。先に先制されたが、それ以降の得点を許さず、豊富なスタミナと粘り強い守備で相手エース選手を複数人のマークし、ロングボールを中心に反撃し、中盤に同点に追い付いた。残り10秒、ゴレイロのフィードをヘディングでフリックしたボールがそのままゴールイン！ スタッフも全員、喜びを爆発させる劇的な逆転勝ちを飾った。決勝は令和4年度の優勝校である北海道中札内高等養護学校と対戦。持ち味の高い守備力を発揮し、2－0と完封。歓喜の優勝となった。昨年度は予選リーグで得失点差わずか1で1～3位リーグに進めず、4位に終わった悔しさを今年にぶつけた。主将の中山太陽選手（3年）は「毎日1時間目に2.5キロを走る授業があって、練習でも多いときには50本のシャトルランを繰り返してきたので、スタミナはほかのチームより上回っていたと思います」と喜んだ。

公益財団法人明日佳の小野寺眞悟理事長は閉会式で「素晴らしい戦いで感動しました。エスポラダ北海道への入団にも挑戦してほしいと思います」と大会を振り返った。全国大会では第1回は中札内が4位、昨年度の第3回はあいの里が2位と、北海道勢の健闘が光っている。白樺も積極的なプレーでの健闘と、またとない全国の仲間達との交流で友情を深め、楽しむことを心から願っている。

第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会（結果）-1

令和7年7月26日

【カテゴリーⅠ 順位決定リーグ】

	対戦校			勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
平取	ほしみ	ほしみ	ほしみ	2	0	1	6	-2	1
	○	×	○						
	3 - 2	2 - 6	3 - 2						
ほしみ	平取	平取	平取	1	0	2	3	2	2
	×	○	×						
	2 - 3	6 - 2	2 - 3						

【カテゴリーⅡ 予選リーグ】

<Aリーグ>

	今金	中札内	札幌	釧路鶴野	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
今金		×	○	○	2	0	1	6	5	2
		0 - 3	6 - 0	2 - 0						
中札内	○		○	○	3	0	0	9	12	1
	3 - 0		4 - 0	5 - 0						
札幌	×	×		△	0	1	2	1	-10	4
	0 - 6	0 - 4		0 - 0						
釧路鶴野	×	×	△		0	1	2	1	-7	3
	0 - 2	0 - 5	0 - 0							

<Bリーグ>

	千歳	白樺	中標津	高等聾	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
千歳		×	○	×	1	0	2	3	-1	3
		0 - 3	4 - 0	0 - 2						
白樺	○		○	△	2	1	0	7	25	1
	3 - 0		22 - 0	0 - 0						
中標津	×	×		×	0	0	3	0	-44	4
	0 - 4	0 - 22		0 - 18						
高等聾	○	△	○		2	1	0	7	20	2
	2 - 0	0 - 0	18 - 0							

<Cリーグ>

	あいの里	紋別	新篠津	伊達	小樽	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
あいの里		○	○	○	○	4	0	0	12	13	1
		8 - 0	1 - 0	3 - 0	1 - 0						
紋別	×		△	×	△	0	2	2	2	-9	5
	0 - 8		1 - 1	0 - 1	1 - 1						
新篠津	×	△		△	△	0	3	1	3	-1	4
	0 - 1	1 - 1		0 - 0	0 - 0						
伊達	×	○	△		×	1	1	2	4	-3	3
	0 - 3	1 - 0	0 - 0		0 - 1						
小樽	×	△	△	○		1	2	1	5	0	2
	0 - 1	1 - 1	0 - 0	1 - 0							

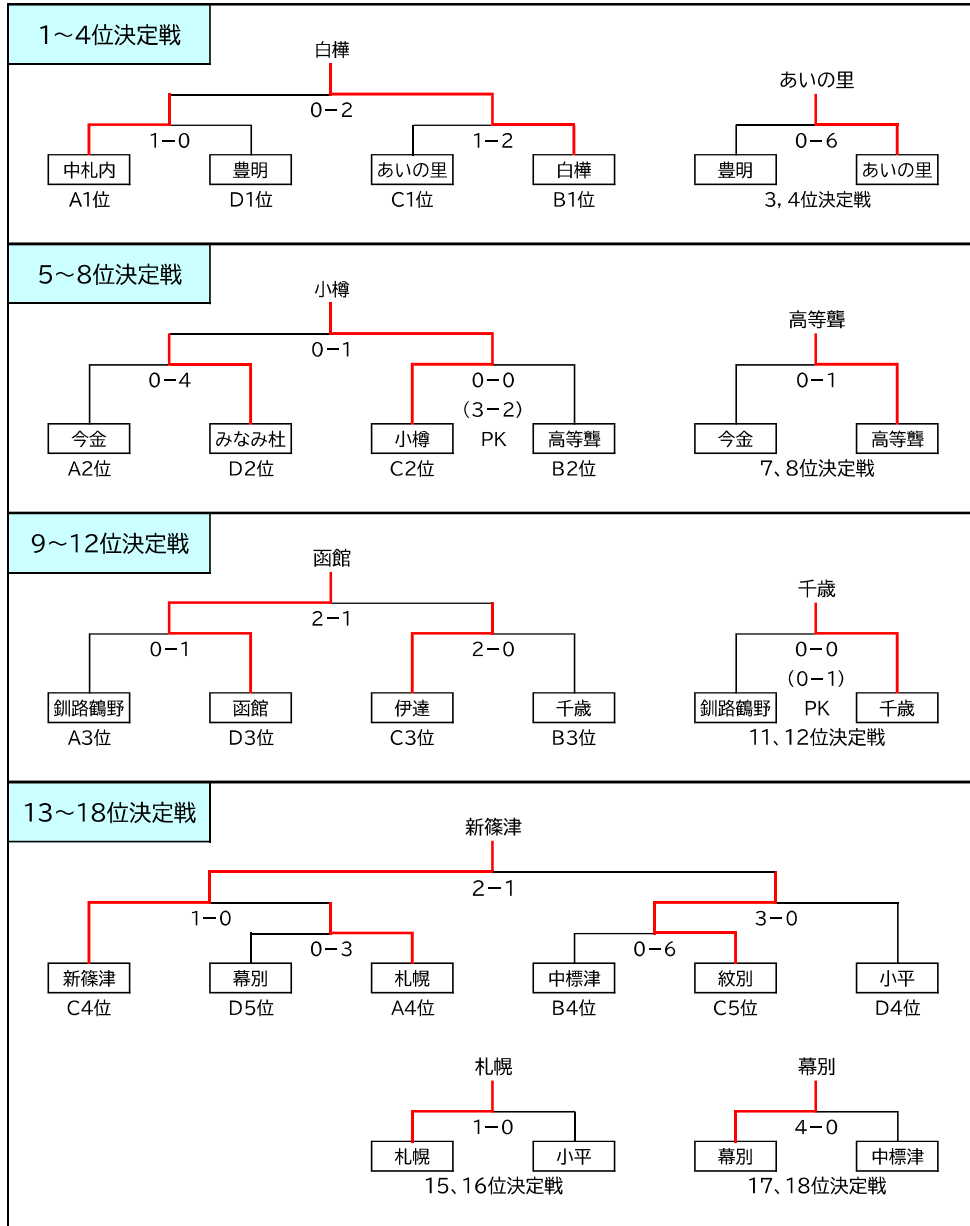
<Dリーグ>

	豊明	幕別	みなみの杜	小平	函館	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
豊明		○	○	○	○	4	0	0	12	8	1
		4 - 0	2 - 1	1 - 0	3 - 1						
幕別	×		×	×	×	0	0	4	0	-15	5
	0 - 4		0 - 6	1 - 4	1 - 3						
みなみの杜	×	○		○	○	3	0	1	9	9	2
	1 - 2	6 - 0		3 - 0	1 - 0						
小平	×	○	×		×	1	0	3	3	-3	4
	0 - 1	4 - 1	0 - 3		0 - 2						
函館	×	○	×	○		2	0	2	6	1	3
	1 - 3	3 - 1	0 - 1	2 - 0							

第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会（結果）-2

令和7年7月26日

【カテゴリーⅡ 順位決定トーナメント】



<総合順位>

【カテゴリー I】

優 勝	平取
準優勝	ほしみ

【カテゴリーⅡ】

優勝	白樺
準優勝	中札内
3位	あいの里
4位	豊明
5位	小樽
6位	みなみの杜
7位	高等聾
8位	今金
9位	函館
10位	伊達
11位	千歳
12位	釧路鶴野
13位	新篠津
14位	紋別
15位	札幌
16位	小平
17位	幕別
18位	中標津



カテゴリーⅠ 優勝 北海道平取養護学校



教諭 長沼 隼人

昨年度に引き続き今年も本大会に参加することができ、大変嬉しく思います。今年は部員が増え5名での参加でした。

中標津から札幌への移動では、普段なかなか味わえない集団での長距離移動を経験することができました。生徒それぞれの経験値が異なるため、移動も一人一人にとっては非常に刺激的な経験だったと思います。

合宿所での生活は不慣れな環境でしたが、仲間同士声を掛け合いながら身支度を済ませたり、食事やお風呂を楽しんだりすることができました。みんなが「暑い」といいながら食事をしたり、部屋で過ごすしたりしたことが思い出です。

大会では他校の勢いに圧倒されてしまっていました。5試合すべてやりきることができました。結果は全敗で悔しいですが、自分たちの立ち位置が分かったり、足りないところを考えたりできる良い機会でした。他校の生徒の雰囲気や部活に真剣に打ち込む同年代の姿が見れたので、大会後も引き続き頑張って練習していきたいと思います。



準優勝 北海道星置養護学校ほしみ高等学園



監督 佐藤 正弥

コート縦横無尽に動き回る選手たちと、それを温かく見守る応援の声が一体となり、熱気であふれる会場でした。勝敗だけでなく、共にプレーする喜びや、仲間と協力し合うことの大切さを肌で感じられる素晴らしい大会になったと感じます。1試合目は緊張や初めての場所、初めての経験という生徒もいて、動きに固さやぎこちなさが見られました。2試合目からは緊張もほぐれ、練習で培ったスキルを存分に発揮するとともに、懸命にボールを追いかけることができました。特に相手からボールを奪いシュートを決めた瞬間の生徒の喜ぶ表情が印象的でした。

今大会も昨年度と同様、平取養護学校と本校との2校の対戦となりました。勝敗という枠を越え、他校の生徒と関わるという校内では味わうことができないような経験は、選手たち、生徒たちにとって成長の糧となると思います。

最後になりますが、本大会を開催・運営いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



カテゴリーⅡ
優勝

北海道白樺高等養護学校



監督 坪内 駿

優勝できたのは子どもたちのおかげです。昨年予選リーグで得失点差により1位通過できない悔しさを忘れられずにずっと1年間練習してきました。サッカー経験者はあまりいないですが、つらい練習を繰り返しながら泥くさく下手でもいいから戦おうと続けてきたので、白樺らしい泥くさい、スタミナとあきらめない気持ちを生かしたプレーができたと思います。

日々の授業でも体力作りのために2・5kmを毎日走っていて、その上での部活動があり、積み重ねが実ったと思います（当日コメント）。

教諭 濱谷 良介

昨年、得失点差で1位リーグに進むことができず、とても悔しい思いをしました。それをバネに今大会で優勝すること、全国大会に出場することを目標に日々練習に取り組んできました。

今大会を通して、試合中の生徒間の言葉がけや指示がいつも以上に多く、試合が進むにつれ、生徒の目線が揃い、自信を持ってプレーすることができました。また、日頃から攻守の切り替え、全員で守備することを意識し、練習した成果が出ました。それが良い結果につながったと考えています。

試合後、他校の生徒などから暖かい言葉をもらい、それを力にし、トーナメントを戦うことができ、相手へのリスペクト精神を学ぶことができました。今後も日頃の練習を通して、成長し、大会参加を通して、他者へのリスペクト精神を学んでいきたいと考えます。



主将 中山 太陽

昨年のリベンジができたのでうれしいです。今年は優勝を目指して練習してきました。順位決定トーナメント1回戦で昨年優勝のあいの里さんと対戦しましたが、強いチームでも勝つつもりをもって全力で戦いました。上手い選手が多かったですが、守備はひとりで抑えるのではなく、全員でしつこく守るというチームカラーもあり、それを意識して、うまく守れました。決勝の中札内戦もあいの里に勝ったからといって気を抜かずに、目標はあくまで優勝だったので全力で挑みました。全国大会は初めてなのでよくわかりませんが、優勝を狙いたいです。



準優勝 北海道中札内高等養護学校



監督 江原 徳明

今年度も素晴らしい大会を開催していただき、誠にありがとうございました。

試合だけではなく、宿舎でも他校の生徒との交流を通じて視野が広がり、良い刺激になりました。当日も保護者や関係者を含め、一体感のある大会だと改めて感じました。

勝敗以上に一人一人が自分の役割を果たし、成長していく姿に大きな感動を覚えました。また、生徒同士でのコミュニケーションが増えたり、今大会では初めて参加者全員が得点したりするなど、チームとしても大きく育った大会になりました。

毎年になりますが、このような貴重な経験をいただけたことに、心より感謝申し上げます。今回の経験を今後の学校生活にも生かしていきたいと思います。





3位 北海道札幌あいの里高等支援学校



監督 笹本 大輔

強豪揃いの予選リーグ。苦しい試合を何とか全勝で勝ちきり、1位で突破することができました。準決勝の相手は、11人制サッカーやフットサルのフェスティバルなどで互角の戦いをしてきた白樺高等養護学校に1-2の逆転負け。昨年の全国大会で評価して頂いたボールを「止める・つなぐ」の技術を発揮してやりきることができませんでした。監督としては、運動量や粘り強さ、気持ちの部分ももっともっと引き出していくことができたと感じており、生徒たち、サッカー部スタッフとも本当に悔しい思いをしました。この悔しい経験を次に向けての原動力として、自分たちのスタイルを貫けるように気持ちも技術も更に高めて前へ進んでいきます。そして、再び全国の舞台へ挑戦します！

大会関係者や対戦相手の皆様、このような素晴らしい大会を開催して頂き、本当にありがとうございました。今後も、共に北海道の特別支援学校に通う生徒たちのスポーツ活動を発展させ、子どもたちが輝ける環境をつくりあげていきましょう。





主将 長谷川 駿太

自分が走り切れなかったのと、パスがうまくつながらなくてシュートを打てなかったのが悔しかったです。白樺さんはあいの里を倒すための戦術を取ってきました。予選リーグの内容は良かったのですが、順位決定戦までに時間が開いて、その後に疲れを感じたまま体が動かせない状態になってしまいました。攻撃面は悪くありませんでしたが、つなげるところをしつかりつなげないと勝てない。守備も相手のロングボールに後手に回ってしまい、課題が残りました。この悔しさを次に生かしたいです。



4位 市立札幌豊明高等支援学校



顧問 足立 友平

今年も大会へ参加することができ、大変嬉しく思います。大会の運営、サポートなどに関わってくださっている全ての皆様に感謝申し上げます。

私たちは予選リーグを1位通過し、決勝トーナメントに進出することができました。初めて大会に出る選手もいて緊張した立ち上がりでしたが、一人一人が自分のできることをチームのために精一杯取り組んでいた結果だと感じています。

本大会4位という結果は嬉しくもあり、悔しくもあります。しかし、選手たちは戦いを通じて自分を信じ、周りを信じることの大切さを学び、より強くなりたい気持ちや仲間との絆を高めることができたと思います。また、彼らの力を最大限に引き出せたのは出場していない選手やOBのサポートのおかげでした。結果以上に大きな学びを得た一日だったと思います。これからもサッカー、フットサルを通して、チームに関わる人々がウェルビーイングを感じられるよう活動していきます。



5位 北海道小樽高等支援学校



監督 鈴木 宏和

(1) 大会全体の感想

今回も大会に参加できたことで、生徒たちにおいてもとても充実した一日となりました。
ありがとうございました。

(2) 選手たちの活躍や成長の様子

残念ながら前日にケガをした選手がいたため、ポジションを変更するなどのアクシデント
はありましたが、優勝するという目標のもと取り組むことができました。

(3) 他校との交流や印象に残った場面

やはり試合中に指示を出していたり、他校のベンチを勝手に利用していたりするチームが
あり、見えないところではがっかりしています。

(4) 今後の抱負、など

次年度はチーム事情（部員数が2名しかいない）により参加できない可能性もありますが、
部員が増えた際には出場したいと思います。



6位 市立札幌みなみの杜高等支援学校



顧問 鈴木 望

2年前にこの小野寺眞悟杯で優勝し、全国大会出場を経験してから、選手の意識の高さが明らかに変わりました。日々の練習においても、自分で考えて動く姿勢が身につく、プレーだけでなく人としての成長も感じられるようになりました。今回の大会では思うような結果を残せず非常に悔しい思いをしましたが、相手へのリスペクトを忘れず、仲間と共に過ごした時間は選手にとってかけがえのない青春の1ページとなりました。また来年、この舞台に戻ってきて、成長した姿で力いっぱいプレーさせていただきたいと思います。

大会運営スタッフの皆さまにも感謝申し上げます。今大会も最高の環境でプレーできました。今後とも応援よろしくお願いいたします。



7位

北海道高等聾学校



顧問 中島 和也

(1) 大会全体の感想

全道の学校が参加しているので、今大会でしか対戦できない学校との試合や、宿舎での交流など生徒達にとってとても良い人生経験の場となっています。毎年、小野寺眞悟杯を目標に練習している様子が試合でも見ることができ、年々個やチームレベルが上がってきているように感じます。また、生徒・顧問が試合に集中できるように、移動手段や食事等細かな面まで配慮していただき感謝しています。

(2) 選手たちの活躍や成長の様子

顧問が試合中に指示しないことで、選手間でのコミュニケーションや約束事の確認等を自主的に行っていました。前日のミーティングでは1時間以上も選手間で話し合い、普段発言が少ない生徒も意欲的に発言をしている様子が見られました。

(3) 他校との交流や印象に残った場面

激しい戦いをした白樺高等養護学校や、他の大会でも合同チームとして出場している小樽高等支援学校とは、試合後にお互いをたたえ合っていました。また、全国レベルのあいの里高等支援学校の試合を間近で見ることができるのは、選手達にとってとても良い刺激になっています。

(4) 来年の抱負

決勝リーグの最高の舞台でしか見ることのできない景色を生徒達が見ることができるよう、日々の練習や学校生活に取り組んでいきたいと思います。



8位 北海道今金高等養護学校



監督 垂石 純尚

生徒たちの笑顔と活気に満ちた一日となりました。日頃の練習の成果を存分に発揮し、白熱した試合を繰り広げる中で、パスをつなぐ連携プレーや、仲間を励ます姿が多く見られました。特に、普段は集団行動が苦手な生徒がチームの一員として仲間に声を掛けたり懸命にプレーしたりする姿は大きな成長を感じさせました。今回の経験を生かし学校生活や部活動の練習に取り組んでいきます。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



9位 北海道函館高等支援学校



監督 中島 一晴

今年フットサル大会に引率として参加し、生徒たちの成長を間近で見ることができました。1 試合目はたくさんの人、新しい環境の中でフットサルをすることに緊張していた生徒たちでしたが、試合数をこなしていくうちに積極的にプレーをすることができました。

試合の中では途中、苦しい局面もありましたが、全員が最後まで諦めずに戦い抜きました。大会を通じて、勝敗を超えてスポーツを楽しむ気持ちや友情、協力の大切さを学んだように感じます。

また、今回たくさんのチームの良いプレイを現場で見る経験をしたことで生徒たちはより一層、「もっとフットサルが上手になりたい！！」と思ったことを大会終了後、話をしてくれました。今後の練習に期待したいと思います。

今回の大会運営に関わりたくさんの準備をしていただいた公益財団法人明日佳グループのスタッフの皆様、本当に感謝申し上げます。来年もまた、この貴重な経験ができることを楽しみにしています。



10位 北海道伊達高等養護学校



監督 上野 樹

大会運営の方々におかれましては、円滑な大会進行と格別のご配慮で大変お世話になりました。

大会に向かう日々の練習から生徒には目標が生まれ、普段の学校生活ではあまり感じるこのできない仲間との競争意識や勝敗を全力で争うシビアな一面を体感し、大会では勝負に向かって真剣にチームメイトと話す新たな一面を見ることができ、北海道伊達高等養護学校としては過去最高順位で大会を終えました。

また、宿舎を利用したということもあり、他校の生徒の様子を見たり、実際にサッカーに関する会話をしたりと、生徒にとって世界が広がる良い刺激になったと感じました。

本校もそうですが、1年後には他校の生徒の実情も大きく変わります。来年度は今年度よりもさらに上位を目指して日々の練習を大切に取り組むことを生徒たちと意気込んでいます。



11位 北海道千歳高等支援学校



監督 豊島 猛志

今年度、予選ブロック、順位決定トーナメントと結果がハッキリ分かる試合形式になったことにより、見通しが持ちやすい大会でした。

ベンチからの指示ができない中、サッカー未経験者が多いチームでしたが、それぞれの生徒が自分にできることを精一杯やってくれたのが印象的でした。結果は11位と、練習の成果が存分に発揮されたことを嬉しく思います。

優勝決定トーナメントで戦った4校の全国に繋がる勝負の世界で戦う姿を見て何か生徒達が気づいてくれればと思います。

今回の大会を通じて、学校全体でもフットサルへの興味・関心が高まっています。この波を絶やさず、来年も継続して参加できるよう、今後の活動に力を入れていきたいと考えています。



12位 北海道釧路鶴野支援学校



監督 上野 太朗

本校は道東の釧路市にあり、近隣の特別支援学校でフットサル部があるのは100km以上離れた中標津支援学校くらいで、交流戦をする機会もなかなか作れません。330kmも離れた札幌まで高速バス経由で行くと6時間半かかり、手帳割引で行っても往復6,000円以上かかります。日帰りはおろか、1泊2日でも帰宅が夜中になるのでどうしても2泊3日が必要で、宿泊費や食費も考えると合計2万円以上はかかることになります。生徒の家庭状況も考えると部員全員の参加は難しくなり、5人そろえるのも大変です。

そんな中、泊を伴う遠方の学校には合宿所の宿泊費だけでなく、往復の高速バス代も助成していただき、大変感謝しております。

大会全体の感想としては、強豪校のスピードとテクニック、パスワーク、ドリブル、シュート力、気合い、どれをとっても圧倒されております。が、本校生徒も全員で体を張って守り、攻める姿勢も忘れないところは練習以上のものが発揮できたと思っています。

試合の合間のインターバルの時間が限られ、試合後の礼もできない状況でしたが、生徒の方から自主的に相手チームに握手しに行く姿は微笑ましい交流でした。

今後の抱負としては、順位よりもまず、3年生が卒業すると今の1・2年生だけだと4人しかいないので今年度中に5人、できれば7人そろえることです。また来年も生徒を連れて参加できるよう、練習以上に勧誘を頑張ります。



13位 北海道新篠津高等養護学校



顧問 郡谷 凌平

第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会に参加し、厳しい暑さの中、円滑な運営に尽力して下さった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

大会では2勝を挙げることができ、選手たちにとって大きな自信となりました。また、1点の重みや得点までの過程の大切さを改めて実感する機会ともなりました。次のプレーを自ら考え、仲間と話し合いながら主体的に取り組む姿が多く見られたことに加え、対戦相手や審判への敬意、支えてくださる方々への感謝の気持ちをもって試合に臨む姿にも成長を感じました。

他校の選手との交流から得た学びを胸に、今後も選手一人ひとりが努力を重ねられるよう、引き続き指導にあたっております。



14位 北海道紋別高等養護学校



教諭 岡野 俊平

結果は14位でしたが、とても学ぶことの多い、充実した大会になりました。選手たちが1分2敗で予選リーグ最終戦を迎えるにあたって、上位トーナメントへの進出が絶望的な状況となった時、普段ではモチベーションの維持が難しい生徒たちの方から声上がり、「こっからが大事だぞ」「全員でやり切るぞ」など、自分たちで雰囲気を作っていました。予選最終戦は1-1の引き分けに終わりましたが、選手達の負けたくないという気持ち、気迫のこもったプレーにとっても感動しました。良い雰囲気でも臨むことができた順位決定リーグでは、今大会初勝利含む2勝1敗という、良い形で終わることができました。チームを引っ張ってくれた3年生も、とても充実した表情をしていました。また、前回大会で対決した選手とお互いの近況を話したり応援しあったりする姿は、大会のコンセプトである「リスペクト」に値するのではないかと思います。

本校は2名のみがフットサル部で、この大会のために他の部活動から6名が参加のために協力してくれました。協力生徒の中には、来年はフットサル部に入ってまたこの大会に来たいと話してくれる生徒もいます。来年も出場できるように生徒たちと一緒に切磋琢磨していきます。



15位 北海道札幌高等養護学校



教諭 山本健之

全道から多くのチームが参加する本大会では、熱気を帯びた会場で試合を重ねることで生徒たちはチームワークの大切さや仲間と協力することの楽しさを実感しました。試合では力の差を実感するなど、悔しい場面もありましたが、全力を出し切ることができ、自分たちの成長を感じることができたと思います。また、他校のプレーから学ぶことも多く、今後の練習への意欲が高まりました。

本校の実情として、近年サッカー部員の減少とともに大会に参加する人数がそろわないという状況があります。今大会においては、初めて他の運動部から参加希望者を募り、どうにか参加にこぎつけることができました。約2か月前から週一回程度の合同練習を行い、ルールや基本動作を覚えながらのチームづくりは、なかなか順調とは言えませんでした。が、うまくいなくても他を責めることもなく、最後は仲間との絆も深まり、忘れられない思い出となった様子でした。生徒からの「楽しかった」「来年も出たい」という言葉に今大会の感想が集約されていたと思います。

また、先日オンラインで学校間の交流を行った生徒の中に、たまたまサッカー部の生徒もいたことから会場で自ら相手校に赴き、挨拶を交わす様子が見られました。このような機会も全道から生徒が一同に会する本大会ならではの感想でした。

生徒たちにとって貴重なこの機会が今後も継続されることを切に願います。



16位 北海道小平高等養護学校



顧問 金子 蓮

はじめに、第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会を開催していただき、誠に感謝申し上げます。

私は今年から小平高等養護学校に着任し、初めて北海道特別支援学校フットサル大会を引率しました。会場に入ったときから多くの選手や保護者の方々が集まり、熱気があふれ、開会式からとても盛り上がりのある大会だと感じました。

選手たちは、フットサル大会に向けて、6月から本格的に練習を行ってきました。人数が少ない中での練習でしたが、暑さに負けず一生懸命練習に励んでいました。大会当日は会場の雰囲気圧倒され、少し緊張していた様子でしたが、試合を重ねるごとに緊張も和らぎ、練習の成果を十分に発揮していました。また、1勝すること、試合を楽しむことを目標に一人一人がチームのために力を尽くし、最後まで全員でやり遂げ、目標も達成することができました。

参加した1・2年生からは、「来年も出たい!」という声が聞こえました。次年度への参加を目指し、目標に向かって活動できるよう指導・支援していきたいです。

2025年第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会の関係者の皆様におかれましては、大会参加に係わる助成等をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。



17位 北海道中札内高等養護学校 幕別分校



監督 津辻 貴之

指導者として今回のフットサル大会に参加して2年目となりますが、選手たちがとても生き生きとプレイしていたと思います。

昨年度は1点も決めることができず、悔しがっていた選手たちでしたが、悔しさをバネにして大会への意欲をもって練習に取り組んでいました。結果は17位ではありましたが、初めての点数を決めることができたこと、初めての1勝ができたことを選手たちはとても喜んでいました。

会場全体の雰囲気として、自チームではなくても、素晴らしいプレイには拍手があったり、応援したりしている姿がとても良い環境だと感じました。

生徒数が少ない学校のため、昨年度に引き続き5人での参加となってしまいましたが、来年度もこの大会に参加したいと思っています。

最後になりますが、小野寺慎悟杯フットサル大会に関わった皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



18位 北海道中標津支援学校



監督 西村 龍馬

昨年度に引き続き今年も本大会に参加することができ、大変嬉しく思います。今年は部員が増え5名での参加でした。

中標津から札幌への移動では、普段なかなか味わえない集団での長距離移動を経験することができました。生徒それぞれの経験値が異なるため、移動も一人一人にとっては非常に刺激的な経験だったと思います。

合宿所での生活は不慣れな環境でしたが、仲間同士声を掛け合いながら身支度を済ませたり、食事やお風呂を楽しんだりすることができました。みんなが「暑い」といいながら食事をしたり、部屋で過ごすしたりしたことが思い出です。

大会では他校の勢いに圧倒されてしまっていたましたが、5試合すべてやりきることができました。結果は全敗で悔しいですが、自分たちの立ち位置が分かったり、足りないところを考えたりできる良い機会でした。他校の生徒の雰囲気や部活に真剣に打ち込む同年代の姿が見れたので、大会後も引き続き頑張って練習していきたいと思います。



閉会式 喜び、感動、悔しさを忘れない



カテゴリーⅡ優勝 白樺高等養護学校（優勝旗授与 小野寺眞悟大会長より）



カテゴリーⅡ準優勝 中札内高等養護学校
（表彰 黒川淳司江別市教育長より）



カテゴリーⅠ優勝 平取養護学校
（賞状 小野寺眞悟大会長より）



カテゴリーⅠ準優勝 ほしみ高等学園
（賞状 片山雅裕大会役員より）



閉会宣言
（鈴木重男実行委員長）

大会履歴

回／年度	参加校数	優 勝	準優勝	第3位
第1回 (2017年)	16校	白樺	高等聾	札幌豊明 韓国安東永明学校
第2回 (2018年)	I 5校 II 21校	ペテカリの園分校 新篠津	帯広 高等聾	南幌 今金
第3回 (2019年)	I 4校 II 23校	帯広 新篠津	ペテカリの園分校 今金	南幌 札幌あいの里
第4回 (2020年)	新型コロナウイルス拡大のため 大会の開催を中止			
第5回 (2021年)	新型コロナウイルス拡大のため 大会の開催を中止			
第6回 (2022年)	I 1校 II 14校	帯広 中札内	札幌あいの里	新篠津
第7回 (2023年)	I 1校 II 18校	ほしみ高等学園 札幌みなみの杜	中札内	高等聾
第8回 (2024年)	I 2校 II 18校	平取 札幌あいの里	ほしみ高等学園 札幌みなみの杜	中札内
第9回 (2025年)	I 2校 II 18校	平取 白樺	ほしみ高等学園 中札内	札幌あいの里

※「参加校数」欄 I：カテゴリーⅠ II：カテゴリーⅡ (学校名は略称で記載)

2025第9回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会 第4回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会 大会役員

大会長	公益財団法人明日佳 公益財団法人明日佳	理事長	小野寺 眞 悟
		業務執行理事	吉 田 洋 一
		理事	三 好 昇
		評議員	吉 田 一 彦
		評議員	大 川 哲 也
		評議員	小 幡 朋 弘
		評議員	渡 部 玲 美
		監事	水 野 哲 也
	(公財)日本ライオンズ複合委員会 (公財) 日本ライオンズ 331-A 地区委員会	委員長	片 山 雅 裕
	公益財団法人明日佳	委員長	小 玉 享 幸
実行委員長	札幌北の杜ライオンズクラブ	事務局長	鈴 木 重 男
総務委員長	札幌北の杜ライオンズクラブ	会長	田 中 基 博
総務委員	公益財団法人明日佳	幹事	今 中 雅 彦
運営委員長		事務局次長	松 下 高 広
運営委員			五十嵐 寛
	北海道真駒内養護学校	教諭	櫻 田 なおみ
	北海道星置養護学校	教諭	加 藤 多満美
	北海道南幌養護学校	教諭	海 田 健
	北海道今金高等養護学校	教諭	須 藤 育 美
	エスポラーダ北海道	職員	武 田 沙 奈
審判・競技委員長	エスポラーダ北海道	スクールダイレクター	吉 田 順 省
審判	札幌フットサル連盟審判部		
医務委員長	医療法人明日佳	看護師	中 瀬 愛 菜
医務委員	医療法人明日佳	看護師	斎 藤 つかさ

Respect



2026(令和8)年
第10回小野寺眞悟杯特別支援学校フットサル大会
(開催のお知らせ)

期 日 2026(令和8)年7月25日(土)
会 場 北翔大学浅井記念体育館

発 行 公益財団法人明日佳
発行日 2025(令和7)年11月
印 刷 柏陽印刷株式会社(札幌市)